

【学校教育目標】		【本年度の重点目標】			
確かな学力と豊かな心をもち、地域を愛するたくましい児童の育成		◎学びの主体となり、課題や解決方法等を選択し、粘り強く解決する児童の育成 ◎多様な価値観を、認め合う児童の育成			
項目	自己評価(成果指標:3.3以上)	児童	学校関係者評価		
組織運営の充実	1 教職員の役割が明確化され、協働体制はできていたか。 (結果)下山田小学校のグランドデザインを提示し、各部の取組が学校の重点目標達成のためであることを職員全体で視覚的に共有し、実践することができた。	3.3	目標を明確にし、取り組むことはとてもよいと思います。これからも続けてください。	□目指すビジョンを共通理解するため、下山田小学校のグランドデザインの視覚化と役割の明確化を引き続き行う。	
	2 PDCAのサイクル化によるマネジメントを行い、改善につながるAの実践化ができていたか。 (結果)「CAP・Dシート」と提示した各部の年間取組一覧を活用し、各委員会ごとに毎月振り返りの時間を設定したことで、職員全体で目的と実施内容を共有しながら、実践することができた。	3.3	取組を振り返り、全体で共有しながら実践されていることは、とてもよいと思います。	□重点目標の達成に向かうため、「CAP・Dシート」の活用を継続するとともに、年間の校務分掌の取組一覧を基に取組の目的や役割を明確化したり、付加修正を加えたりするようにする。	
	3 学力向上プランの共通理解、共通実践ができていたか。 (結果)誰一人取り残さないために、単元テストにおいて「トリプル80」の通過率を丁寧に見取り、取組内容の改善等を職員全体で確認し、実践することができた。	3.4	授業参観から、どの学年も落ち着いた雰囲気の中で、学習が進められていることが伝わってきます。	□学力向上プランの重点的な具体策について共通理解・共通実践を行うため、職員研修の場を持ち、丁寧な確認を行い、進捗状況を見取る。	
	4 体力向上プランの共通理解、共通実践ができていたか。 (結果)小パワーアップ習慣を設定し、全校で大縄・持久走・短縄に取り組み。グループや個人の目標を大切にしながら取組を進めることができた。	3.0	自分で立てた目標に向けて頑張ることはとても良いことだと思います。	□体力向上プランの重点的な具体策について共通理解・共通実践するため、体力向上推進部が中心となって、児童の体力の実態をもとに具体策を整理する職員研修を行う。	
	5 保護者・地域の教育力を生かす教育活動の推進ができていたか。 (結果)コミュニティ・スクールを行い、教育活動の様々なところで保護者・地域と連携し、子ども達に体験を伴った学習を実施できた。	3.3	CSの活動を通じて、学校、PTA、公民館、地域の連携がとれていると思います。合同部会において「めざす子どもの姿」を決めて活動したことがよかった。	□今後も、合同部会において、本校の「めざす子どもの姿」や「重点目標」をもとに、各部の「めざす子どもの姿」を設定し活動することで、学校と地域が一体となり、子どもたちの教育環境を整え、教育活動の充実を図る。	
	6 主題研修や一般研修等において、主体的に取り組むことができていたか。 (結果)児童自らが課題の解決方法を選択し、解決する場面を設定したことで、子どもが主体となる授業づくりについて考え研究を進めることができた。また、授業改善に向け、教師それぞれの課題解決に向けた授業研修を行うことができた。	3.4	子どもたちの学力向上のため、校内での教師間のスキルアップ等は、ぜひ続けてください。	□授業づくりを充実させるため、「授業スタンダード」の日常化や、目標設定・学習計画、自己評価を位置付けた取組を重視する。 □教師の主体性を高めるため、学力向上推進部を中心として、教師一人ひとりの課題解決に向けた研修と強みを生かす校内研修の在り方を工夫する。	
	7 いじめアンケートやいじめ対策委員会の実施等、いじめ問題に組織的に取り組むことができていたか。 (結果)いじめ・生活アンケートを全学年タブレットを活用し、計画通りに実施した。係が集約して個人の変容をとらえることで、児童の様子を把握できた。いじめの事案の認知も速やかに行い、早期発見・早期解決できた。	3.7	高い評価結果から、先生方一人ひとりが、しっかりと児童の実態をつかもうとされている様子がわかります。これからも、子どもたちの小さな変化に気づくことができるようお願いします。	□児童は、アンケート結果の処理時間短縮のため、タブレット回答、保護者は回答の回収率を上げるため紙媒体での実施をする。 □生徒指導担当が、欠席等の増減やアンケート結果からの心の動き等について前月と比較しながら整理し、職員間で共有する取組を継続することで、児童の小さな変容の見取りを行う。	
	総合所見 年度始めに、学校の課題と目指す子ども像を共有したことが、協働体制づくりの推進へつながった。学力向上に関しては、学力向上推進委員会を中心に児童の実態を把握し、必要な学年や単元に習熟度別学習を取り入れる等、学校全体で組織的に取り組んだ。その結果、「トリプル80」の単元通過率を国語、算数共にあげることができた。また、教師が自らの課題に向き合い、授業改善を行ったことで、児童も自ら課題の解決方法を選択しながら学ぶ姿が多く見られるようになった。さらに、学力向上と生徒指導の両輪がうまく回るように、小規模校の強みを生かしてきめ細かな見取りを行い、早期発見・早期対応を行うことができた。				
	下山田を大切にすること	1 下山田や嘉麻市(地域)のことを楽しく学ぶ子どもを育てる。 (結果)生活科や総合的な学習の時間に、系統的に体験活動を位置づけ、GTを招いたり目的意識をもたせたりなど工夫した。また、嘉麻かるたに取り組み中で、児童の地域への関心を高めることができた。	3.7	3.6	□総合的な学習の時間の学びを充実させるため、「下山田の人・もの・こと」をはじめ、嘉麻市全体における共通教材「ふるさと学習地域教材カリキュラム」の活用を推進を図る。
		2 地域の行事について話したり参加したりする子どもを育てる。 (結果)コミュニティ・スクールにおいて、保護者や地域の方々と共に活動する場が継続されており、地域の行事へ参加する児童が増えた。	3.2	3.3	□地域の行事に参加することを促すため、コミュニティ・スクールの活動や夏まつりの時期に、声かけを行う。
総合所見 学校の目指す子ども像や重点目標をうけ、学校運営協議会の各部署で「目指す児童像」を設定し、その実現に向けた取組を進めることができた。子ども育成部では、花いっぱい運動の取組を通して大人と会話を楽しむ児童へ、学校見守り部では、活動を見守っていただく中で大きな挨拶ができる児童へ、学校環境部では、PTAと連携した取組「わたしの樹」を通して、自然への関心をもつ児童へと意識が変容していることが、各活動の児童の感想等から見られる。このことから、「目指す児童像」の設定が、活動の充実につながっているといえる。					
やいざこざの子	1 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 (結果)あいさつ週間を設け、委員会や登校班ごとに朝から外であいさつ運動を行い、学校全体へ意識付けを行った。また、あいさつのポイント(目を見て、元気よく)を全校で確認することで、よいあいさつの姿を共有したり、あいさつが上手な児童を紹介したりすることができた。	3.8	2.6	□児童で組織された計画委員会を中心に、あいさつについてのアンケート結果をもとに課題と価値を整理し、児童が目的をもって活動を行う支援を行うことで、自ら気持ちの良いあいさつを実施できるようにする。 □道徳科の授業を充実させ、あいさつの価値をしっかりと学習させる。そして、生活の中で実践させ、評価する。	
	2 「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」が素直に言える子どもを育てる。 (結果)一緒に活動したり関わってもらった方にお礼の手紙等を書いて渡す経験から、感謝の気持ちの伝え方を学ぶことができた。また、友達との関係がうまくいった時の対処法を、学ぶことができるよう指導を継続していく。	3.6	3.0	□積極的な生徒指導として、子どもたちのよい姿には称賛と励ましを行うとともに、相手に気持ちを伝えることのよさを感じさせる指導を行う。 □コミュニティ・スクールの活動の中でも大切にしたいですね。	
	3 一人ひとりの考えや思いを受け入れ、話し合うことができる子どもを育てる。 (結果)自分も友達も尊重する心の姿勢を大切に、「自分はどうしたいのか」をきちんと伝え折り合いをつける経験を積ませるようにしてきた。また、異学年交流や異世代交流の中でと関わる際に相手の考えや思いを受け入れ、関わり合う場面が多く見られるようになった。	3.4	2.8	□自分も友達も尊重する心の姿勢を大切に、「自分はどうしたいのか」をきちんと伝え折り合いをつける経験を日々の中で積み重ねていく。 □たてわり活動や地域との連携の中で、様々な思いや考えに触れさせるため、多くの人と関わる機会を設定する。	
	4 相手の気持ちを考え、優しく声をかけ、かわる子どもを育てる。 (結果)全校で「ふわふわ言葉」(1学期)「まほうの言葉」(3学期)の取組を通して、言葉についての学習を推進するとともに、優しい言葉を称賛することができた。児童の実態から、発達段階に応じた取組を継続していく。	3.6	3.2	□嬉しい言葉を増やすため、視覚的に分かりやすい「ふわふわ言葉の木」の取組を全校で継続していく。子どもたちが嬉しかった「ふわふわ言葉」を全校で紹介したり、学級でも取組の実施をしたりして推進する。	
	総合所見 6年生が最上級生としての意識を高めて取り組む姿が、下級生のおこがれとなっており、縦割り活動においてもみんなで声をかけながら取り組むことができた。工夫してみんなで楽しめる活動をたくさん生み出していき、よい学校文化へつながった。昨年度、児童と教師の意識の差が大きかったあいさつや言葉遣いについては、取組によって改善されつつある。今後も、児童と教師がともに課題を共有し、対策を考え取り組みを進めていくことが大切である。				
	教育課程	1 先生や友だちの話を聞く子どもを育てる。 (結果)授業の中にグループ学習を取り入れ、自分の考えを明確にさせることで、意欲的に話を聞こうとする児童をめざす取組や、友達を大切に認め合う大切さを学ばせる取組を行ったことで、先生や友だちの話を落ち着いて聞く習慣が、定着してきている。	3.7	3.0	□子ども達が聞きたくする学習になるため、学力向上担当を中心とし、グループ学習の必然性やねらい、学習形態等の工夫を行うっていく。
2 自分の考えを書いたり、進んで発表したりする子どもを育てる。 (結果)論理的に考えて表現できるようにするため、思考場面において、考えを持たせる手立ての工夫を行った。学力調査等の結果にも自分の考えを書く問の数値が伸びてきた。		3.6	3.1	□子ども達に活動の目的・観点・方法を明確にし、発表の前に自分の考えをまとめさせる活動を継続して行う。 □学習内容に応じて、ノートとカスタの効果的な活用を検討・実施する。	
3 自分の課題をもち、自分に合う解決方法で、学び合う子どもを育てる。 (結果)ICTを活用して協働的な学びになるよう、互いの考えを共有したり参照したりするよう手立ての工夫を行い、発言する姿が多く見受けられた。児童が、さらに主体的に学ぶことができるよう、学びを調整する力をつける授業の工夫を行っていく。		3.4	2.8	□子ども達の思考を深めるため、板書と電子黒板、カスタの効果的な活用を今後も検討・実施する。 □学ぶこと自体に興味や関心を持つように、めあてと対話と振り返りを大切に授業づくりを行う。	
4 学習の振り返りをし、次の学びへ生かそうとしていますか。 (結果)振り返りをICTを活用して書くことで、友達の考えを他者参照することができるようになり、次の学習への意欲付けもできるようになってきた。		3.6	3.3	□自分の課題になるように、子どもがどんな解決したい課題をもっているのか、振り返りなどで把握し、次の時間の学びにつなげる。	
5 図書館の本をたくさん読む子どもを育成する。 (結果)「うち読」の取組、図書委員会の活動、てんとう虫書、読み聞かせ、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。読書祭では、多くの取り組みがなされ、全学年で多読賞の児童を表彰することができた。		3.3	3.3	□読書率を高めるため、司書、図書館教育の担当者が中心となり、図書館の環境整備に努める。 □読書ボランティアの活用をはじめ、図書委員会の読み聞かせや読書祭等の取組の充実を図る。	
6 家庭で約束の時間、学習できる子どもを育てる。 (結果)毎日の家庭学習の時間の目標に届いた児童は85%を超えた。また、家庭学習の習慣がなかなか定着しなかった児童も、少しずつ家庭学習と向き合い、努力しようとする姿が見られるようになってきた。		3.4	2.9	□個に応じた週末課題を推進するため、AIドリルを活用し基礎・標準・応用の課題を配信し、児童自ら課題を選択し取り組むなど、学びの個別最適化を図る。 □自ら学ぶ習慣を付けることができるよう、必要に応じてチャレンジ塾を行う。	
総合所見 「授業チェックリスト」や「授業評価アンケート」を活用して自分の授業のどこを改善したらいいか、また学校全体で重点的に意識するところを明確にし、次の授業づくりへ生かすことができた。また、1単位時間の学習内容が身についたかどうか見取り「クリア問題」を終末に位置づけ、単元達成率を上げることができた。家庭学習は、毎学期の「ノーマディア・うち読」の取組の継続と、個に応じた家庭学習の推進、来年度も継続していく。					
だいたくましい子	1 学校を休まないように気をつける子どもを育てる。 (結果)2月時点で、不登校児童1名。学校、保護者、カウンセラーの連携を行い、個に応じた支援の形を模索しながら取組を進めている。長期欠席(30日以上)児童2名。全員登校できた日(花丸の日)が32日。	3.7	3.1	□魅力ある学校づくりを組織的に推進する。 □PTAと連携し、アクション3に基づく取組の再確認と実施する。 □不登校兆候児童へのきめ細やかな対応を行うため、マンツーマン方式の採用と必要に応じた生徒指導委員会を開催(情報共有、取組の方針検討・実施)する。	
	2 元気よく外で遊ぶ子どもを育てる。 (結果)体育委員会での「全校おにごっこ」や学級での取り組みの工夫により、みんなで元気に遊ぶ機会を多くつくる取組をできた。休み時間以外で遊ぶ児童を増やす取組を継続していく。	3.5	3.1	□自ら運動する意欲を高めるため、外遊びの課題を子ども達と共有し、体育委員会を中心に、外遊びを推奨する取組を計画させる支援を行う。	
	3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育てる。 (結果)掃除頑張り週間の設定やたてわり掃除では、主体的に掃除の活動を展開できた。教師のほめる働きかけにより、一生懸命頑張る姿が見られた。	3.8	3.3	□進んでそうじに取り組む児童を育てるため、たてわり掃除の計画的な実施や、振り返り活動の徹底に努める。	
	4 「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを育てる。 (結果)PTAの「スマリーノート」の取組と連携して、基本的な生活習慣を身に付ける取り組みを実施した。また、下小スポーツフェスティバルの前後に、養護教諭を中心とした「あさごはんをたべよう」の取組を行ったことで、朝ごはんを食べることを大切さを意識する児童が増えた。	3.3	2.9	□基本的な生活習慣を身に付けさせるため、「スマリーノート」を工夫する等、PTAと連携して、家庭への効果的な啓発を実施する。 □中校区の取組である「ノーマディア」の取組を継続する。	
	5 安全に注意して登下校できる子どもを育てる。 (結果)安全に気をつけて登校してきている姿が見られた。昨年度より、車の送迎ではなく、歩いてくるようになった児童が増加した。分団登校の意識づけを継続して行う。	3.8	3.5	□子ども達が安全に注意しながら登校する力を身に付けさせるため、交通安全教室・防犯教室等を活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 □コミュニティ・スクールの見守り部と連携を図り、通学路の定期的な点検を実施や危険箇所の把握と改善に継続して努める。	
	総合所見 登下校については、地域の方々にも見守っていただいているので、子ども達も安全に気をつけて登校することができた。また、基本的な生活習慣についても、定期的な保護者と共に取組む習慣を設けたことで、意識の向上が図られた。特に気になる家庭は、家庭訪問をして登校を促す取組を行ったことで、成果が見られた。来年度も、個に応じた取組の継続を行っていく。				